

# 第4部

## 年表・名簿

年表については、創部された1917年からの100年分を掲載した。90年誌でも90年分の年表を整理したが、それを1917年(大正6年)から2008年(平成20年)まではそのまま再録している。今回は、10年分の年表に加えて、各年の主要な出来事に関連する写真を特集し、年表そのものを充実させた。

また、名簿は、90年誌での名簿に加えて、この10年間に、新たにLB会員となった方々を掲載した。女子部の卒部生も、LB会員として、我々の仲間入りしていることも目を引くと思う。これからのア式蹴球部の屋台骨を担ってくれるものと期待したい。

(武田)

関  
東  
魂

1917年～1931年

(注) 特にことわりがなければ、この年表に掲載した写真は90年誌より転載。

年号	西暦	東大のサッカー	
大正6年	1917		
大正7年	1918	第1回関東蹴球大会 (模範試合) 帝大蹴球団 (八高OBで編成) 対高師B (0-0)	
大正8年	1919		
大正9年	1920	第3回関東蹴球大会 (模範試合) 帝大蹴球団 (初の東大統合チーム) 対アストラ・クラブ (3-0)	
大正10年	1921	第4回関東蹴球大会 (模範試合) 帝大蹴球団 対高師 (0-2)	野津謙第5回極東大会出場
大正11年	1922	専門学校蹴球リーグ 2位	
大正12年	1923		第1回全国高等学校選手権大会開催 野津謙、新田純興の企画
大正13年	1924	関東大学リーグ1部 2位	
大正14年	1925	関東大学リーグ1部 2位	東大第5回全日本選手権準優勝 竹腰重丸、第7回極東大会選手権出場
大正15年	1926	関東大学リーグ1部 優勝	
昭和2年	1927	関東大学リーグ1部 優勝	竹腰重丸、第8回極東大会選手権出場
昭和3年	1928	関東大学リーグ1部 優勝	東大チーム、上海遠征
昭和4年	1929	関東大学リーグ1部 優勝	東西優勝校争覇戦に勝利、全国制覇 対関学 3-2
昭和5年	1930	関東大学リーグ1部 優勝	東西優勝校争覇戦に勝利、全国制覇 対京大 2-1
昭和6年	1931	関東大学リーグ1部 優勝	東西優勝校争覇戦、優勝を分ける 対関学 2-2



昭和3年度、リーグ戦に3連覇したチーム。カップを持つのは竹腰主将。

昭和3年11月初の上海遠征。昭和天皇の即位の礼の祝日を利用して、東大チームで上海遠征。上海リーグの英人チームと2戦して2敗、技量とフェアプレーを学んだ。神戸埠頭から出航。

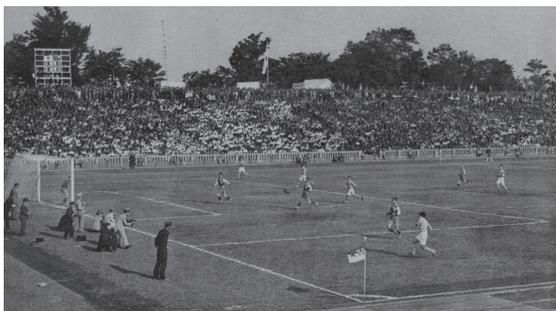


昭和3年12月9日 東大3-1早大。早大ゴール前での攻防。白が東大(神宮)。



上海での練習風景。

日本のサッカー	世界のサッカー	その頃の世界、日本	西暦	年号
第3回極東選手権大会（東京）、日本代表は東京高等師範		ロシア10月革命ソビエト政権樹立	1917	大正6年
日本フットボール大会（現在の高校選手権の前身）開催			1918	大正7年
			1919	大正8年
			1920	大正9年
第5回極東選手権大会（上海）、日本代表は全東京 大日本蹴球協会創立			1921	大正10年
			1922	大正11年
第6回極東選手権大会（大阪） 日本代表は大阪サッカー倶楽部		関東大震災	1923	大正12年
			1924	大正13年
第7回極東選手権大会（マニラ） 日本代表は大阪サッカー倶楽部	ルール改正 （オフサイド3人→2人）		1925	大正14年
		12月25日、元号が昭和となる	1926	大正15年
第8回極東選手権大会（上海）、早大WMWが初勝利			1927	昭和2年
			1928	昭和3年
日本FIFAに加盟		世界恐慌（Black Thursday）	1929	昭和4年
第9回極東選手権大会（東京）、日本、中華民国と同位ながら初優勝 日本代表は東大中心の選抜チーム	第1回W杯（ウルグアイ） 優勝ウルグアイ		1930	昭和5年
		満洲事変	1931	昭和6年



昭和5年5月29日、第9回極東選手権大会 日本対中国  
3-3で引分け、中国と同位優勝（神宮競技場）  
（アサヒ・スポーツ6月10日号より）日本のメンバーの8名は東大。



昭和5年第9回極東選手権大会の篠島秀雄の選手票の裏面。織田幹雄、南部忠平、吉岡隆徳ら陸上競技選手のサインが見える。



昭和5年度の卒業生を送る会。中央は末広部長。東大御殿下グラウンドで。

1932年～1945年

年号	西暦	東大のサッカー	
昭和7年	1932	関東大学リーグ1部	3位 鈴木駿一郎、稲田龍三郎、竹腰重丸、船岡鉄司、生島克明、竹内梯三、東西対抗OB戦に出場
昭和8年	1933	関東大学リーグ1部	3位 東京OBクラブ（東早慶OB）第13回全日本選手権優勝
昭和9年	1934	関東大学リーグ1部	4位 竹腰重丸、監督として第10回極東大会参加
昭和10年	1935	関東大学リーグ1部	2位 東京学生蹴球連盟改組 関東大学蹴球連盟成る 竹腰重丸、竹内梯三、阿部栄夫、東西対抗OB戦に出場
昭和11年	1936	関東大学リーグ1部	4位 ベルリンオリンピック（竹内、種田、高橋、竹腰）
昭和12年	1937	関東大学リーグ1部	2位 朝日招待（対京大2-5） 関東大学OBリーグ 東大OB3連覇
昭和13年	1938	関東大学リーグ1部	2位 関東6人制選手権 東大LB優勝
昭和14年	1939	関東大学リーグ1部	3位 東大第19回全日本選手権4位 関東6人制選手権 東大OB優勝
昭和15年	1940	関東大学リーグ1部	4位 東大第20回全日本選手権3位
昭和16年	1941	関東大学リーグ1部	優勝 帝大、早大がリーグ戦績で並び優勝決定戦も1-1で引き分け、両校 優勝となる
昭和17年	1942	関東大学リーグ1部	優勝 関東学生選手権大会 準優勝 東西代表校対抗戦（対関学8-1）
昭和18年	1943	関東大学リーグ1部	優勝 関東大学サッカー連盟の記録では中止となっている 関東学生選手権大会 優勝
昭和19年	1944	戦時で休止	
昭和20年	1945	戦時で休止	

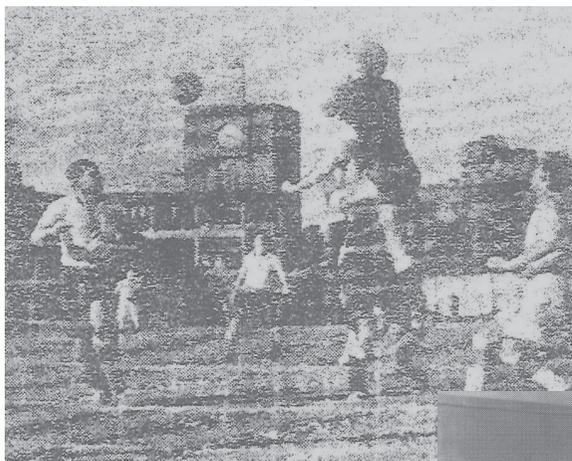
昭和8年11月18日（神宮G）関東リーグ1部早大戦（0-2）（早大ゴール前の熱戦 帝大 高山のシュートをGKセーブ）



（上記2枚は『闘魂』5号より）

昭和11年7月  
ベルリンオリンピック日本代表に東大より4人出場。  
竹内梯三（前列右から3人目）  
種田孝一（前列左から2人目）  
高橋豊二（後列左から4人目）  
竹腰重丸（後列右から4人目）  
（優勝候補のスウェーデンを3-2で破る）

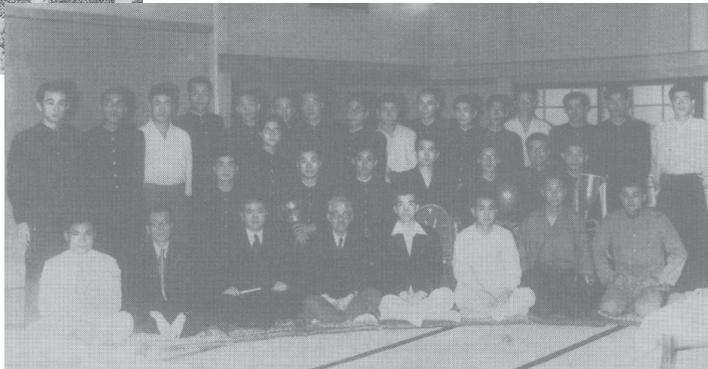
日本のサッカー	世界のサッカー	その頃の世界、日本	西暦	年号
		五・一五事件	1932	昭和7年
			1933	昭和8年
第10回極東選手権大会 (マニラ)	第2回W杯 (イタリア) 優勝イタリア		1934	昭和9年
		第一高等学校が駒場に移転 (東京帝大農学部と敷地を交換)	1935	昭和10年
ベルリンオリンピック (初出場)	ベルリンオリンピック	二・二六事件	1936	昭和11年
		日中戦争勃発	1937	昭和12年
	第3回W杯 (フランス) 優勝イタリア		1938	昭和13年
		第二次世界大戦勃発	1939	昭和14年
		皇紀2600年	1940	昭和15年
		太平洋戦争勃発 学制短縮のため12月卒業	1941	昭和16年
	ドイツ開催予定のW杯中止		1942	昭和17年
		7月1日、東京府・東京市が廃止さ れて東京都が設置された	1943	昭和18年
			1944	昭和19年
		第二次世界大戦終了	1945	昭和20年



(『闘魂』5号より)

昭和16年10月11日 (神宮外苑G)  
 関東大学リーグ1部第2戦 立教戦 (2-0)。  
 この年は早大と決定戦も引分け、両校優勝。  
 (前半3分、帝大の攻撃を立大のGK叩いて防ぐ)

昭和17年6月21日  
 関東大学リーグ1部優勝祝勝会  
 (前列中央に内田部長、竹腰氏)  
 戦局対応のため9月繰り上げ卒業になり、  
 リーグ戦は春に行った。



(『闘魂』4号 部室建設記念号より)

1946年～1960年

年号	西暦	東大のサッカー			
昭和21年	1946	関東大学リーグ1部	2位	関東学生選手権大会 優勝	東大LB第26回全日本選手権優勝 第1回国民体育大会 東大LB準優勝
昭和22年	1947	関東大学リーグ1部	3位		
昭和23年	1948	関東大学リーグ1部	優勝	東西学生第1位対抗 対関学 0-2	
昭和24年	1949	関東大学リーグ1部	4位		東大LB第29回全日本選手権優勝
昭和25年	1950	関東大学リーグ1部	5位		朝日招待全東大勝利
昭和26年	1951	関東大学リーグ1部	6位		
昭和27年	1952	関東大学リーグ1部	7位	第1回大学選手権 優勝 下方入替戦(対青学4-0) 残留	
昭和28年	1953	関東大学リーグ1部	6位		国際学生スポーツ週間(ドルトムント大会) (岡野、竹腰監督)
昭和29年	1954	関東大学リーグ1部	7位	第3回大学選手権 3位 下方入替戦(対法大6-1) 残留	
昭和30年	1955	関東大学リーグ1部	7位	第4回大学選手権 3位	
昭和31年	1956	関東大学リーグ1部	8位	下方入替戦(対法大1-2) 降格	東大LB第36回天皇杯全日本選手権出場
昭和32年	1957	関東大学リーグ2部	2位	優勝決定戦に敗れて2位	
昭和33年	1958	関東大学リーグ2部	2位		東大LB第38回天皇杯全日本選手権3位
昭和34年	1959	関東大学リーグ2部	優勝	優勝決定戦に勝ち優勝 上方入替戦(対法大0-2) 残留	
昭和35年	1960	関東大学リーグ2部	4位		



昭和30年 夏合宿  
(日立市会瀬G)、  
OBとの試合後  
浅見主将のもと、山  
中湖に替え平坦なグ  
ランドを求めた。  
(90年誌より)

昭和32年の卒業生の送別  
試合  
後列 山本、津田、対木、  
嶋田、稲井  
前列 原、小松、倉田、  
福田、片原



昭和31年 田村新監督が直接指導されるも2部降格



日本のサッカー	世界のサッカー	その頃の世界、日本	西暦	年号
		日本国憲法公布 東京大学に初めて女子学生が入学	1946	昭和21年
		日本国憲法施行	1947	昭和22年
			1948	昭和23年
		新制大学へ移行	1949	昭和24年
	第4回W杯（ブラジル） 優勝ウルグアイ	朝鮮戦争はじまる	1950	昭和25年
		サンフランシスコ講和条約調印	1951	昭和26年
			1952	昭和27年
			1953	昭和28年
	第5回W杯（スイス） 優勝西ドイツ		1954	昭和29年
野津謙日本蹴球協会会長に就任（このあと10期26年間）			1955	昭和30年
メルボルンオリンピック（出場）		日本、国際連合に加盟	1956	昭和31年
			1957	昭和32年
	第6回W杯（スウェーデン） 優勝ブラジル ミュンヘンの悲劇	東京タワー完成	1958	昭和33年
			1959	昭和34年
野津会長、代表コーチにデットマール・クラマーを招聘		日米安保条約調印	1960	昭和35年



昭和33年1月25日送別試合の後、御殿下グラウンドで  
(昭和33年卒がそろって)  
後列左から：木村、五十嵐、西野、  
前列左から：小林、名取、浜口



昭和34年12月2日 2部リーグ  
優勝決定戦で日大に2-1で勝利したときの集合写真（御殿下）  
（『闘魂』3号より）



昭和33年頃の京都遠征  
左から三浦、高田、高場、？、野澤、松村、  
小山、足立、服部、本林  
(小山氏より提供)

1961年～1973年

年号	西暦	東大のサッカー	
昭和36年	1961	関東大学リーグ2部	2位
昭和37年	1962	関東大学リーグ2部	優勝 上方入替戦(対法大0-1) 残留
昭和38年	1963	関東大学リーグ2部	3位 御殿下クラブ発足
昭和39年	1964	関東大学リーグ2部	5位
昭和40年	1965	関東大学リーグ2部	3位
昭和41年	1966	関東大学リーグ2部	5位
昭和42年	1967	関東大学リーグ2部	5位 御殿下クラブ関東リーグ入り
昭和43年	1968	関東大学リーグ2部	3位 メキシコオリンピック(岡野コーチ)
昭和44年	1969	関東大学リーグ2部	優勝 上方入替戦(対中大0-7) 残留 御殿下少年サッカークラブ発足
昭和45年	1970	関東大学リーグ2部	4位
昭和46年	1971	関東大学リーグ2部	4位
昭和47年	1972	関東大学リーグ2部	7位 下方入替戦(対明学大4-3) 残留
昭和48年	1973	関東大学リーグ2部	4位



昭和39年 東京オリンピックの年、石光主将、樋口主務のもとに戦う。追い出し試合のあとに(御殿下)



昭和40年 高田新監督になり平田主将のもとで。4年生のプレーヤー9人(御殿下)



昭和46年頃 検見川での御殿下サッカースクールの合宿、日本代表選手と一緒に。

日本のサッカー	世界のサッカー	その頃の世界、日本	西暦	年号
		ベルリンの壁設置	1961	昭和36年
	第7回W杯(チリ) 優勝ブラジル		1962	昭和37年
		ケネディ大統領暗殺	1963	昭和38年
東京オリンピック(ベスト8)		東海道新幹線開通	1964	昭和39年
日本サッカーリーグ発足			1965	昭和40年
	第8回W杯(イングランド) 優勝イングランド		1966	昭和41年
			1967	昭和42年
メキシコオリンピック(銅メダル)		各地で大学紛争	1968	昭和43年
			1969	昭和44年
	第9回W杯(メキシコ) 優勝ブラジル	EXPO70(大阪万博)開催 よど号ハイジャック事件	1970	昭和45年
		マクドナルドの日本1号店が東京・ 銀座に開店	1971	昭和46年
		あさま山荘事件 沖縄返還	1972	昭和47年
			1973	昭和48年

(下記の4枚は武田氏より提供)



昭和44年 関東2部で7年ぶり、3回目の優勝の表彰式(御殿下)



昭和43年8月 検見川夏合宿、関学大との練習試合のあと。



昭和44年8月 検見川夏合宿の風景



昭和43年10月26日 2部リーグ戦、日体大に3-1で勝利(御殿下)

1974年～1984年

年号	西暦	東大のサッカー
昭和49年	1974	関東大学リーグ2部 6位
昭和50年	1975	関東大学リーグ2部 6位
昭和51年	1976	関東大学リーグ2部 5位
昭和52年	1977	関東大学リーグ2部 7位 下方入替戦（対立正大1-2）降格
昭和53年	1978	東京都大学リーグ1部 6位
昭和54年	1979	東京都大学リーグ1部 5位
昭和55年	1980	東京都大学リーグ1部 4位 関東大会準決勝（対明学大0-2）
昭和56年	1981	東京都大学リーグ1部 6位
昭和57年	1982	東京都大学リーグ1部 6位
昭和58年	1983	東京都大学リーグ1部 8位 自動降格
昭和59年	1984	東京都大学リーグ2部 4位

御殿下記念館建設のため、農学部グラウンドにホーム移動



昭和49年 検見川合宿 浅見監督のもと厳しくも充実した合宿であった。  
(中根写真集より)

昭和52年4月10日 春季対抗の早大戦（東伏見）  
山崎（主将）、松浦（早大）、青山（GK）

昭和51年 武田新監督、藤原主将のもとで戦う。52年卒業メンバー7人。  
前列左より  
森井、三島、藤原  
後列左より  
岩田、池田、小野田、加藤  
(卒業アルバムより)



日本のサッカー	世界のサッカー	その頃の世界、日本	西暦	年号
	第10回W杯（西ドイツ） 優勝西ドイツ	三菱重工爆破事件	1974	昭和49年
		第1回サミットがフランスで開催 サイゴン（当時）陥落、ベトナム 戦争が終結	1975	昭和50年
協会法人化（財）日本サッカー協会に改称		ロッキード事件 家庭用VHSビデオテープレコーダ 1号機発売	1976	昭和51年
奥寺康彦1FCケルンに移籍			1977	昭和52年
	第11回W杯（アルゼンチン） 優勝アルゼンチン	新東京国際空港（成田）開港	1978	昭和53年
		イラン革命 ソ連がアフガニスタンに侵攻 スリーマイル島原子力発電所事故	1979	昭和54年
		ルービック・キューブブーム	1980	昭和55年
			1981	昭和56年
	第12回W杯（スペイン） 優勝イタリア	フォークランド紛争 500円硬貨発行	1982	昭和57年
			1983	昭和58年
			1984	昭和59年



昭和53年7月9日（京大農学部）  
（90年誌より）  
京大戦開会式  
左から  
湊、宮崎、井田、安藤、吉野、  
吉江、宮（主将）、高岡（京大  
主将）



昭和56年10月25日  
都リーグ1部最終戦、立教と4位（関東大会出場）をかけた  
死闘を演じた（慶應日吉G）

1985年～1995年

年号 西暦

東大のサッカー

昭和60年 1985 東京都大学リーグ2部 優勝 自動昇格

昭和61年 1986 東京都大学リーグ1部 3位 関東大会2位  
上方入替戦 (対学習院大0-0)

昭和62年 1987 東京都大学リーグ1部 2位 関東大会1回戦 (対千葉大0-1)

昭和63年 1988 東京都大学リーグ1部 7位

平成元年 1989 東京都大学リーグ1部 6位

農学部構内に部室完成

平成2年 1990 東京都大学リーグ1部 4位 関東大会1回戦 (対関東学院大0-2)

平成3年 1991 東京都大学リーグ1部 3位 関東大会1回戦 (対関東学院大0-1)

平成4年 1992 東京都大学リーグ1部 4位 関東大会2回戦 (対創価大 負)

平成5年 1993 東京都大学リーグ1部 8位 自動降格

平成6年 1994 東京都大学リーグ2部 4位

チームDiego結成

平成7年 1995 東京都大学リーグ2部 3位 上方入替戦 (対創価大1-1) 残留

昭和63年卒業のメンバー 11人  
2年連続 (61、62年) 関東大会に出場し、関東  
2部に最も近づいた年代。  
後列左から、金子、利重、末永 (孝)、浜田、  
湯原 (旧姓谷本)、外野、山本、  
前列左から、今井、久保田、鹿園、末永 (浩)



平成元年1月14日 晴れやかに巣立つ卒業生5人 (農学部G)  
(後列左から、浜田、後藤、大久保、斉木、鹿園)



平成元年1月14日 (農学部G)  
卒業生を囲んで

日本のサッカー	世界のサッカー	その頃の世界、日本	西暦	年号
	ヘイゼルの悲劇	NTT民営化 国際科学技術博覧会(つくば万博)開催	1985	昭和60年
	第13回W杯(メキシコ) 優勝アルゼンチン	チェルノブイリ原子力発電所事故発生 ハレー彗星大接近	1986	昭和61年
		国鉄が分割・民営化 大韓航空機爆破事件	1987	昭和62年
		青函トンネル・瀬戸大橋開通	1988	昭和63年
	ヒルズボロの悲劇	1月8日、元号が平成となる 消費税スタート(3%) ベルリンの壁崩壊	1989	平成元年
	第14回W杯(イタリア) 優勝西ドイツ	東西ドイツ統一	1990	平成2年
		湾岸戦争勃発 ソビエト連邦崩壊	1991	平成3年
			1992	平成4年
Jリーグ発足 「ドーハの悲劇」		EU発足	1993	平成5年
	第15回W杯(アメリカ) 優勝ブラジル		1994	平成6年
	ボスマン判決	阪神・淡路大震災(1月) 地下鉄サリン事件(3月)	1995	平成7年



平成6年 吉田監督、  
信国主将のもと都2部で  
戦う(4年生メンバー)



平成7年10月 吉田監督、前川主  
将のもと都2部で3位、入替戦出る  
も1部昇格ならず。  
(旧部室玄関前で リーグ戦のあと)

1996年～2008年

年号	西暦	東大のサッカー	
平成8年	1996	東京都大学リーグ2部 6位 下方入替戦 (対明星大3-1)	残留
平成9年	1997	東京都大学リーグ2部 6位 下方入替戦 (対成蹊大0-2)	降格
平成10年	1998	東京都大学リーグ3部B 優勝	自動昇格
平成11年	1999	東京都大学リーグ2部 3位	
平成12年	2000	東京都大学リーグ2部 優勝	自動昇格
平成13年	2001	東京都大学リーグ1部 8位	自動降格
平成14年	2002	東京都大学リーグ2部 6位	自動降格
平成15年	2003	東京都大学リーグ3部B 2位 上方入替戦 (対立教大0-3)	残留
平成16年	2004	東京都大学リーグ3部B 2位	御殿下グラウンドに復帰
平成17年	2005	東京都大学リーグ2部 4位	
平成18年	2006	東京都大学リーグ2部 3位	LB会法人化 (有限責任中間法人東大LB会)
平成19年	2007	東京都大学リーグ2部 5位	LB会浅見新理事長就任、若手LB「チームDiego」が都社会人2部優勝
平成20年	2008	東京都大学リーグ2部 4位	ア式90周年の各種事業を行う、関西LBスタート



平成8年 山中湖合宿 吉田監督、竹内主将のもと2部に何とか残留



平成9年 監督不在で、矢野主将のもと奮闘 (部室2階にて)



(『闘魂』5号より)

平成12年 服部監督3年目で足立主将のもと2部優勝し、都1部へ8年ぶりの復帰。(那須合宿)

日本のサッカー	世界のサッカー	その頃の世界、日本	西暦	年号
アトランタオリンピック（出場）			1996	平成8年
		香港、中国に返還 消費税アップ（5%）	1997	平成9年
フランスワールドカップ（初出場） 岡野俊一郎、日本サッカー協会会長に就任（～2002）	第16回W杯（フランス） 優勝フランス	長野オリンピック（2月）	1998	平成10年
			1999	平成11年
シドニーオリンピック（ベスト8）			2000	平成12年
		アメリカ同時多発テロ事件（9.11）	2001	平成13年
日韓ワールドカップ（ベスト16）	第17回W杯（日本・韓国） 優勝ブラジル	日朝平壤宣言	2002	平成14年
		イラク戦争	2003	平成15年
アテネオリンピック（出場）			2004	平成16年
		愛・地球博（愛知万博）開催	2005	平成17年
ドイツワールドカップ（出場）	第18回W杯（ドイツ） 優勝イタリア		2006	平成18年
			2007	平成19年
北京オリンピック（男女出場）		リーマンショック（9月）	2008	平成20年



平成15年 鈴木久雄新コーチ、贅川主将のもと都2部へあと一歩及ばず。  
（農学部Gにて）



平成16年4月 昭和58年（1983）以来21年ぶりの御殿下グラウンドへの復帰。  
照明も新設。この年にリーグ戦すべてを御殿下で戦い、2部復帰。



平成19年 平成10年以来9年にわたり監督であった服部一郎氏（昭和35年卒）が平成18年5月に逝去され、偲んで作った横断幕。今も生きている！服部監督が好んで口にした言葉が書いてある。後列中央の女性は奥様の服部圭以（たまい）さん

2009年～2018年

年号	西暦	東大のサッカー
平成21年	2009	東京都大学リーグ2部 2位 自動昇格 大谷四郎殿堂入り、LB会は一般社団法人LB会へ移行
平成22年	2010	東京都大学リーグ1部 4位 浅見俊雄殿堂入り、御殿下・農学部両Gが人工芝化
平成23年	2011	東京都大学リーグ1部 優勝 関東大会予選敗退 (1勝2敗) 林健太郎コーチ就任 久木田紳吾 ファジアーノ岡山へ 牛木素吉郎殿堂入り
平成24年	2012	東京都大学リーグ1部 7位 東大スポーツ振興基金に「ア式口座」開設
平成25年	2013	東京都大学リーグ1部 8位 鹿園部長、利重監督就任 部室建て替え計画始動
平成26年	2014	東京都大学リーグ1部 9位 自動降格 (女子部) 関東大学リーグ3部 4位 <small>(10チーム)</small> 女子部発足、長尾林太郎 横川武蔵野FCへ オックスフォード大との交流試合
平成27年	2015	東京都大学リーグ2部 3位 自動昇格 (女子部) 関東大学リーグ3部 8位 <small>(11チーム)</small> LB-BRB TOKYO創設 添田隆司 藤枝MYFCへ、星コーチ、野口コーチ就任 ソウル大・チュラロンコン大との交流試合
平成28年	2016	東京都大学リーグ1部 10位 自動降格 (女子部) 関東大学リーグ3部 9位 <small>(11チーム)</small> 御殿下サッカースクールを現役主体の運営へ
平成29年	2017	東京都大学リーグ2部 6位 (女子部) 関東大学リーグ3部 10位 <small>(12チーム)</small> 利重総監督、福田監督体制へ。岩政コーチ就任 LB-BRB TOKYOが東京ユナイテッドフットボールクラブに改名
平成30年	2018	東京都大学リーグ2部 優勝 自動昇格 新部室完成 (3月)、100周年記念事業



平成23年 リーグ最終戦 対帝京大 2-1で勝利し、都1部初優勝!



平成27年11月 タイ遠征 (三井物産タイ事務所受付前にて)



平成26年12月 オックスフォード大との交流試合 (御殿下) ゴール前での緊迫感あふれるヘディング争い

日本のサッカー	世界のサッカー	その頃の世界、日本	西暦	年号
		オバマ米大統領就任	2009	平成21年
南アフリカワールドカップ (ベスト16)	第19回W杯 (南アフリカ) 優勝スペイン	小型惑星探査機はやぶさ帰還	2010	平成22年
ドイツ女子ワールドカップ (優勝)		東日本大震災 (3.11)	2011	平成23年
ロンドンオリンピック (男子:ベスト4 女子:銀メダル)		東京スカイツリー開業 (5月)	2012	平成24年
カナダ女子ワールドカップ (準優勝)		富士山、世界遺産へ	2013	平成25年
ブラジルワールドカップ (出場)	第20回W杯 (ブラジル) 優勝ドイツ	消費税アップ (8%) 御嶽山噴火 (9月)	2014	平成26年
		パリ同時多発テロ (11月)	2015	平成27年
リオオリンピック (男子: 出場)		熊本地震 (4月)	2016	平成28年
		トランプ米大統領就任 (1月)	2017	平成29年
ロシアワールドカップ (ベスト16)	第21回W杯 (ロシア) 優勝フランス	大阪 (6月)、北海道 (9月) 地震	2018	平成30年



平成28年 創部2年の女子部メンバー



平成30年3月 7年の月日と7千万円の寄付で完成した新部室



3大学対抗戦 (検見川) での東大LBシニアのメンバー

東大L B会員 東京大学ア式蹴球部員名簿

- ・「1918年 大正7年」～「2004年 平成16年」については90年誌掲載の名簿をそのまま再録しており（ただし「1998年 平成10年」以降の女子マネージャーはそれぞれの年次に移動している）、年次は入学年である。
- ・「2009年 平成21年」以降については卒業年次別構成であり、原則として入学年+4年を卒業年としている。
- ・90年誌で付けた逝去者のマークは今回は表示していない。
- ・いずれも記載項目は、「氏名 学部 出身校」である。

東大L B会員

1918年 大正7年			
高橋 礼本	法	八高	
竹内 恵太郎	法	八高	
1919年 大正8年			
新田 純興	工	一高	
1920年 大正9年			
杉原 雄吉	経済	一高	
田中 豊	法	七高	
野津 謙	医	一高	
1921年 大正10年			
岸本 武夫	農		
山崎 幸一郎	経済	八高	
米谷 豊照	法	一高	
渡辺 武	工		
1922年 大正11年			
折下 誠	文	七高	
竹内 邦次郎	農	山口高	
辰馬 俊夫	経済	八高	
林 振成	経済	一高	
別所 甫	法	八高	
1923年 大正12年			
出田 節雄	工	山口高	
小林 清	医	八高	
岸本 英夫	文	六高	
小山 富蔵	法	水戸高	
茂森 薫	工	山口高	
藤本 直秀	文	三高	
1924年 大正13年			
朝生 要人	経済	水戸高	
木村 康一	医	水戸高	
杉野 薫	経済	松江高	
鈴木 喜久男	工	八高	
田中 久	医		
中嶋 道雄	経済	水戸高	
中村 陽吉	法	八高	
松井 三郎	医	水戸高	
村上 一雄	農	松江高	
1925年 大正14年			
秋原 正雄	法	山口高	
伊藤 誠朗	経済	松本高	
井上 克巳	医	山口高	
井上 七兵衛	経済	松江高	
潮 安	文	山口高	
小畠 政俊	経済	松山高	
坂本 彪	経済	松江高	

塩原 三郎	工	水戸高
竹腰 重丸	農	山口高
竹村 勝衛	工	
永田 竜之助	農	松江高
中嶋 健蔵	文	松本高
並川 安幸	文	松江高
野島 福太郎	経済	七高
乗富 文夫	経済	水戸高
堀田 嘉幸	工	八高
松野 三郎	文	松江高
山本 良造	工	八高

1926年 大正15年			
荒井 力	工	水戸高	
安東 新午	工	水戸高	
井上 正吉	経済	松江高	
黒田 留一郎	工	松江高	
鈴木 駿一郎	理	八高	
土井 由之	工	一高	
二星 豊彦	理	松江高	
林 不二雄	法	水戸高	
船橋 大	経済	七高	
森脇 大五郎	理	八高	
山路 誠	法	一高	

1927年 昭和2年			
大町 篤	農	山口高	
小川 忠恵	法	二高	
奥野 熙	法	一高	
北村 郁三郎	経済	水戸高	
近藤 八三	工	八高	
潮村 浪雄	法	広島高	
武井 玄介	法	静岡高	
中島 實	法	七高	
盤瀬 太郎	経済	二高	
細井 敏夫	経済	浦和高	
和田 盛三	経済	水戸高	
渡辺 誠	文		

1928年 昭和3年			
青山 幸一郎	法	八高	
板野 清	農	水戸高	
稲田 竜三郎	工	七高	
鬼塚 信彦	文	七高	
斉藤 五郎	法	山口高	
篠島 秀雄	法	東京高	
高山 忠雄	文	八高	
田辺 輝一郎	工	二高	
東原 繁次	経済	水戸高	
春山 泰雄	経済	水戸高	
船岡 哲司	経済	広島高	
法貫 三郎	法	山口高	
若林 竹雄	経済	松山高	

1929年 昭和4年			
生島 克明	経済	東京高	
塩原 敬五	経済	二高	
竹内 悌三	経済	浦和高	
手島 志郎	農	広島高	
野沢 正雄	農	広島高	
山川 敏夫	文	東京高	
山崎 健二	工	山口高	

1930年 昭和5年			
市川 達郎	法	浦和高	
出浦 清一	法	静岡高	
倉辻 實俊	工	山口高	
豊崎 光衛	法	大阪高	
内藤 健三	法	松山高	
林 史郎	工		
三宅 豊幸	法	八高	

1931年 昭和6年			
今村 秀夫	法	東京高	
神原 健	理	浦和高	
菊地 健一	法	武蔵高	
木村 久男	工	東京高	
桑田 規矩男	経済	東京高	
芝地 光	経済	五高	
島崎 辰二	法	五高	
高山 英華	工	成蹊高	
田村 富二郎	文	東京高	
日高 秀吉	文	成城高	
藤岡 端	文	静岡高	
宮原 俊雄	工	八高	
山田 信一	経済	東京高	
和田 重暢	工	武蔵高	

1932年 昭和7年			
江崎 憲弥	法	武蔵高	
太田 博太郎	工	武蔵高	
片山 甲子男	経済	静岡高	
川村 満雄	工	東京高	
原田 惇	経済	水戸高	
宮内 守三郎	経済	松山高	
八卷 直躬	工	武蔵高	
横田 周平	工	水戸高	

1933年 昭和8年			
太田 公平	経済	水戸高	
小川 清一	法	一高	
川島 三四郎	工	一高	
川原 亨	法	水戸高	
菊池 武美	医	水戸高	
信田 正	経済	松山高	
高橋 覚	法	東京高	
萩原 正治	文	水戸高	
服部 正策	工	東京高	
廣渡 浩美	法	広島高	

宮沢 正雄	工	成蹊高	岡崎 恭一	経済	山形高	1945年 昭和20年	
森 茂	工	東京高	笹間 正義	経済	武蔵高	後藤 大三	工 新潟高
渡辺 弘	工	成蹊高	嶋田 正彦	工	水戸高	高橋 敏彦	法 都立高
1934年 昭和9年			近重 八郎	工	六高	二宮 泰	工 水戸高
愛知 悌一	工	成蹊高	浜野 充理泰	農	成城高	馬越 和英	経済 六高
稲川 達	工	一高	原田 饒	工	府立高	松元 五郎	経済 成城
大内 弘	経済	一高	山岡 元嗣	経済	府立高	1946年 昭和21年	
沖 朗	法	一高	横山 陽三	文	東京高	早川 純生	理 学習院
笠原 新太郎	工	二高	1940年 昭和15年			1947年 昭和22年	
佐藤 文夫	法	五高	天野 公義	文・法	府立高	天野 晴郎	農 五高
近石 経雄	工	六高	種田 憲次	医	浦和高	海老原 純	経済 水戸高
長 亨	法	広島高	大谷 四郎	経済	一高	大崎 昭	工 浦和高
寺沢 一彦	工	二高	柏木 大安	農	静岡高	大鳥 正直	工 東京高
松浦 武男	経済	二高	菊池 武弥	医	水戸高	小倉 義文	工 成蹊高
光藤 俊雄	経済	浦和高	小亀 憲三	工	武蔵高	坂本 和男	文 三高
若林 義夫	六高		島田 哲夫	農	山形高	橋本 恒太郎	工 五高
1935年 昭和10年			山田 彦雄	農	八高	福田 重信	法 東京高
種田 孝一	経済	水戸高	渡辺 恒行	法	東京高	松平 英人	経済 静岡高
塩沢 弘雄	経済	水戸高	1941年 昭和16年			丸山 智信	経済 武蔵高
潮田 収	法	武蔵高	渥美 節夫	法	静岡高	本永 成二郎	工 一高
神保 恒	法	六高	奥島 雄次郎	農	松山高	柳沢 長治	法 松本高
徳田 晃一	工	武蔵高	奥瀬 雅久	経済	浦和高	1948年 昭和23年	
長見 正三	法	弘前高	木村 栄一	経済	水戸高	秋山 榮	農 姫路高
二宮 淳	経済	水戸高	水津 肇	工	一高	池原 秋男	経済 成蹊高
野田 礼治	経済	東京高	花田 正彦		弘前高	大埜 正雄	経済 水戸高
藤岡 卓人	法	水戸高	武者 廣吉	工	二高	中村 一夫	法 六高
森 孝雄	経済	東京高	渡辺 隆二	工	府立高	1949年 昭和24年【旧制】	
横山 佐蔵	工	東京高	1942年 昭和17年			石川 晴樹	経済 水戸高
1936年 昭和11年			飯塚 祐	医	静岡高	加藤 真三郎	工 浜松工専
秋保 義雄	経済	成城高	大井上 正雄	法	一高	菊井 維正	法 武蔵高
阿部 栄夫	工	東京高	大貫 雅敏	文	成城高	中条 一雄	農 広島高
河西 清	工	東京高	加藤 信幸	医	一高	八星 孚	理 水戸高
加藤 匡夫	法	東京高	近藤 健吾	工	府立高	三輪 嘉晟	工 六高
菊池 宏	農	二高	齋藤 賢吾	経済	六高	安氏 孝一	農 弘前高
後藤 典夫	工	広島高	須賀 敏孝	農	水戸高	山田 敏郎	農 松本高
小林 孝正	法	五高	三上 一郎	工	一高	(十四郎)	
小林 卓郎	文	水戸高	矢嶋 幹男	工	六高	吉富 裕	経済 山口高
高橋 豊二	農	成城高	不破 新	法	東京高	1949年 昭和24年【新制】	
田村 三郎	農	武蔵高	小林 敏郎	経済	府立高	関 彦太	工 都立西
築島 開一	工	六高	渡辺 洋三	法	一高	1950年 昭和25年【旧制】	
林 文二	経済	広島高	1943年 昭和18年			石井 正	工 浦和高
松村 達夫	経済	府立高	伊藤 泰方	法	一高	海老原 朗	経済 水戸高
宮本 惇	法	東京高	岡本 潤一	工	浦和高	柴沼 明	法 水戸高
1937年 昭和12年			高月 東一	文	四高	坪田 亜規良	工 富山高
岩動 洋二	法	山形高	永井 卓也	経済	都立高	中原 壯六	経済 大分経専
大槻 忠夫	工	二高	中村 勇二	経済	松本高	山本 一次	文 一高
大屋 宏	工	六高	本城 治彦	法	一高	1950年 昭和25年【新制】	
奥田 正明	農	成蹊高	1944年 昭和19年			岡野 俊一郎	文 小石川
喜谷 慶一	法	一高	黒津 亮二	工	一高	金井 弘夫	理 成蹊
吉田 正伍	経済	六高	古泉 榮一	工	都立高	川辺 正行	工 新宿
1938年 昭和13年			濃野 滋	法	東京高	立石 知也	経済 小石川
飯島 栄次	農	山形高	佐々木 俊郎	農	弘前高	中川 勉	法 希望丘
大山 政行	法	一高	佐藤 正猪	法	浦和	長山 樹	法 小石川
力石 五郎	経済	府立高	高崎 達也	工	静岡高	新倉 雄三	工 成城
直木 和	法	六高	遠山 直道	経済	都立高	原 忠彦	経済 教育大附
長谷部 富彦	工	二高	馬渡 一眞	法	水戸高	藤井 和彦	経済 两国
1939年 昭和14年			三井 忠夫	工	都立高	1951年 昭和26年	
有泉 俊亮	工	東京高	山崎 英耶	法	浦和高	折原 一雄	文 小石川
有馬 洪	医	浦和高	村瀬 隆二	文	東京高		
大場 景雄	農	成城高	長島 喬	経済	松本高		

第4部 年表・名簿

柴沼 晋 教育 教育大附  
 鈴木 美暢 工 湘南  
 深見 浩一 経済 麻布  
 藤本 鉄也 法 教育大附  
 帆足 祀夫 工 豊多摩

1952年 昭和27年

浅見 俊雄 教育 浦和  
 飯塚 肇 工 新宿  
 牛木 素吉郎 文 新潟  
 片山 義朗 工 鳥原  
 楠田 喜宏 工 修猷館  
 中島 裕 農 都立西  
 西本 晃二 文 成蹊  
 浜口 博彦 農 四日市  
 山野 一郎 農 甲府一  
 山本 修 工 湘南

1953年 昭和28年

稲井 取一 経済 都立西  
 片原 清 農 広大附  
 倉田 日出男 法 小石川  
 小松 新樹 工 神戸  
 嶋田 武夫 工 湘南  
 対木 昭寿 法 戸山  
 津田 義久 法 灘  
 原 靖二郎 法 教育大附  
 福田 宏紀 法 教育大附

1954年 昭和29年

五十嵐 洋文 工 豊多摩  
 井田 信雄 工 金沢大附  
 木村 蕪 工 岡山操山  
 小林 昭夫 法 飯田  
 名取 章 工 日比谷  
 西野 宏 経済 水戸第一  
 浜口 幸久 法 四日市南山

1955年 昭和30年

梅本 進 工 瑞陵  
 風間 幸介 経済 小石川  
 畔柳 敏雄 教養 教育大附  
 高山 武彦 法 豊多摩  
 佐藤 芳夫 工 成蹊  
 高田 宗昌 農 都立大附  
 長崎 充博 工 国泰寺  
 西尾 元宏 薬 都立大附  
 服部 一郎 法 開成

1956年 昭和31年

安達 良英 経済 小石川  
 伊野部 元彦 教養 土佐  
 小山 富士夫 文 両国  
 長濱 毅 法 灘  
 福田 泰二 理 武蔵  
 水谷 幸弘 工 明和  
 山川 博司 工 麻布  
 吉田 二陸 法 広大附

1957年 昭和32年

足立 格一郎 工 小石川  
 高場 眞平 農 豊多摩  
 野澤 量一郎 工 青山学院  
 松村 保 工 都立西  
 本林 徹 法 成蹊

1958年 昭和33年

喜多 康夫 工 長崎東  
 斎藤 次郎 経済 広大附  
 高嶋 伸亨 法 都立西  
 名越 英夫 工 教育大附  
 三浦 二郎 農 成蹊

1959年 昭和34年

梅村 洋 経済 小石川  
 高橋 一修 法 新宿  
 内藤 隆史 工 都立西  
 中村 紀雄 農 灘  
 仁科 正純 文 両国  
 門馬 建 農 戸山  
 山根 文吾 法 湘南

1960年 昭和35年

安達 二郎 経済 浦和  
 宇尾 誠一 法 日比谷  
 小川 肇 経済 教育大附  
 熊沢 英男 経済 両国  
 後藤 雅治 経済 桐朋  
 中島 宏介 経済 小石川  
 長田 綏男 法 戸山  
 八田 洋 工 小石川  
 南 忠夫 工 教育大附  
 森 紘一 工 戸山  
 山浦 紘一 経済 小石川  
 山田 隆哉 経済 開成  
 吉田 慶次 経済 新宿

1961年 昭和36年

新井 俊一 法 日比谷  
 石田 金次郎 経済 小田原  
 石光 豊 経済 広大附  
 太田 直幹 法 湘南  
 奥 博靖 工 新宿  
 加藤 義章 工 日比谷  
 川瀬 隆弘 経済 広大附  
 畔柳 信雄 経済 教育大附  
 小林 邦彦 工 戸山  
 樋口 周嘉 工 学習院  
 平井 啓詞 工 刈谷  
 深澤 重幸 経済 教育大附  
 間宮 誠一郎 経済 小石川

1962年 昭和37年

河井 良彦 工 灘  
 河島 洋征 工 北野  
 香山 晋 工 都立西  
 武田 勝年 経済 日比谷  
 中岡 智信 工 日比谷  
 野村 晋作 法 広大附  
 平田 攻 法 国泰寺  
 廣瀬 英雄 農 戸山  
 藤井 俊治 工 小山台  
 水澤 雅武 工 教育大附  
 渡辺 翼 農 函館東

1963年 昭和38年

小川 司朗 工 灘  
 沖 邦雄 経済 学芸大附  
 草野 干夫 農 浦和  
 熊谷 眞俊 工 灘  
 小柳 理 農 小石川  
 坂井 忠昭 教養 修道

嶋田 厚二 工 日比谷  
 田代 忠之 文 都立西  
 鳥原 光憲 経済 小石川  
 三浦 重 工 教育大附  
 見米 紘一 工 教育大附  
 吉田 茂男 農 日比谷

1964年 昭和39年

小西 敏夫 経済 教育大附  
 諏訪 勝久 経済 立教  
 中井 省 法 立川  
 小川 恭二 工 小田原  
 小林 将志 工 教育大附駒場  
 中尾 捷 工 麻布

1965年 昭和40年

石田 祐幸 経済 麻布  
 大塚 隆 工 教育大附駒場  
 大町 達夫 工 日比谷  
 加納 研之助 工 麻布  
 北川 薫 教育 旭丘  
 小林 喜一 農 日比谷  
 杉山 健一 工 沼津東  
 友定 正治 法 広大附  
 永峰 富一 工 日比谷  
 鍋島 厚 経済 戸山  
 馬郡 貴司 工 洛北  
 松岡 誠也 工 日比谷  
 八林 秀一 経済 日比谷  
 藪内 俊和 法 戸山

1966年 昭和41年

小菅 恭彦 法 栄光学園  
 小柳 望 農 小石川  
 佐藤 吉見 法 教育大附駒場  
 武田 厚 法 日比谷  
 田代 康之 工 日比谷  
 新倉 正和 工 栄光学園  
 榊井 成夫 文 広大附  
 吉崎 英雄 法 小石川  
 渡辺 宏 工 暁星

1967年 昭和42年

井上 恒久 農 教育大附  
 小原 正 工 旭丘  
 鹿島 文行 法 日比谷  
 金丸 仁 医 教育大附  
 古村 一郎 法・経 修道  
 櫻井 英人 経済 武蔵  
 清水 俊行 工 修道

1968年 昭和43年

赤松 秀樹 法 広大附  
 大日向 明 工 日比谷  
 金武 貢 工 岐阜  
 黒沢 秀樹 農 湘南  
 上妻 達也 医 教育大附  
 俵 新 工 開成  
 手島 直幸 経済 小山台  
 戸井 正明 法 教育大附駒場  
 宮路 康利 経済 立川  
 山本 哲郎 経済 教育大附

1969年 昭和44年

入学試験中止

1970年 昭和45年

内田 純司 経済 倉敷青陵  
 岡田 滋行 経済 下関西  
 笠原 昌行 文 高崎  
 佐々木 順孝 経済 教育大附  
 田名 眞一 経済 駒場東邦  
 西澤 良徳 経済 松本深志  
 三田 四郎 薬 甲陽

吉江 建一 工 麻布  
 吉野 元章 工 広島学院

1976年 昭和51年

青山 市三 工 滝  
 飯島 正 工 小石川  
 井田 陽彦 経済 四日市  
 大塚 伸宏 工 仙台第一  
 柿木 真澄 法 鹿兒島ラ・サール  
 菊地 保旨 農 横須賀  
 佐藤 敦郎 経済 都立西  
 平林 健一 農 桐朋  
 湊 和則 法 広島学院  
 宮崎 洋 工 都立西  
 山本 洋一 工 横浜翠嵐

牛草 哲朗 文・法 聖光学院  
 衛藤 公洋 教養 千葉  
 小野 平 工 灘  
 河合 耕作 法 武蔵  
 近藤 晋 経済 東海  
 笹間 鉄也 文 早大学院  
 仙石 雄三 工 東海  
 手嶋 通晴 工 广大附  
 久井 大樹 経済 久留米大附設  
 安田 賢一 工 天王寺

1971年 昭和46年

天野 裕 経済 都立西  
 荒川 吉彦 法 浦和  
 上原 施門 教養 千葉  
 磨井 祥夫 教育 都立西  
 遠藤 譲 教育 都立西  
 大高 松男 工 栃木  
 尾崎 哲男 経済 教育大附駒場  
 柴田 敏之 工 麻布  
 兵頭 圭介 医 教育大附  
 松下 兼幸 法 鶴丸  
 山中 馨 法 栄光学園  
 山辺 福二郎 経済 栄光学園  
 吉澤 伸明 文 栄光学園

1977年 昭和52年

安藤 豊 工 修猷館  
 牛窪 健一 農 金沢大附  
 (山川)  
 田河 一郎 理 青山  
 田中 聡 文 聖光学院  
 福田 信夫 理 鹿兒島ラ・サール  
 松元 明弘 工 鹿兒島ラ・サール

1982年 昭和57年

上原 裕之 経済 栄光学園  
 小泉 泰郎 経済 学芸大附  
 手塚 久 経済 湘南  
 森 光金 経済 戸山  
 山本 昇 経済 广大附

1972年 昭和47年

池森 俊文 理 广大附  
 植村 祐幸 経済 新宿  
 小野田 莊平 農 都立西  
 影本 浩 工 修道  
 杉浦 裕 医 旭丘  
 多田 均 法 洛西  
 田中 靖 経済 湘南  
 谷本 篤信 工 教育大附駒場  
 茅野 浩一 工 諏訪清陵  
 堀井 茂 経済 教育大附駒場  
 御園 慎一郎 法 灘  
 陽 雅文 工 富山中部  
 南谷 尚志 法 大教大附天王寺  
 宮武 明 経済 桐朋

1978年 昭和53年

赤星 克彦 農 鹿兒島ラ・サール  
 飯島 敦 経済 都立西  
 川村 公一 工 桐朋  
 坂田 中 経済 鹿兒島ラ・サール  
 志水 利彰 工 湘南  
 福沢 伸哉 経済 麻布

1983年 昭和58年

佐藤 広史 経済 武蔵  
 依藤 哲治 法 沼津東  
 鈴木 修二 農 桐朋  
 谷本 真人 経済 桐朋  
 馬場 洋一 農 久留米大附設  
 山下 毅 法 浜松北

1973年 昭和48年

池田 吉彦 文 都立西  
 岩田 武史 工 湘南  
 加藤 重和 工 栄光学園  
 藤原 真一 法 岡山朝日  
 三島 茂 薬 千葉  
 森井 太一 工 教育大附

1979年 昭和54年

安 秀和 農 都立西  
 植田 浩 法 大教大附天王寺  
 熊倉 政宣 工 宇都宮  
 後藤 啓 教養 鹿兒島ラ・サール  
 斎川 路之 工 立川  
 柴田 光弘 工 新宿  
 清水 靖裕 工 武蔵  
 高木 智 工 大分国東  
 明日香 寿川 農 戸山  
 (張)  
 中谷 知弘 薬 淳心学院  
 中野 北斗 法 教育大附駒場  
 西田 裕 経済 高松  
 西野 耕一 工 鹿兒島ラ・サール  
 橋本 晴充 工 神奈川県立多摩  
 和田 康太郎 法 立川

1984年 昭和59年

今井 勝典 法 広島学院  
 金子 健紀 法 学芸大附  
 久保田 健 農 清水東  
 鹿園 直毅 工 水戸第一  
 末永 孝彦 工 学芸大附  
 永谷 浩 農 福岡  
 利重 孝夫 教養 栄光学園  
 浜田 穰太郎 教養 栄光学園  
 山野 雅彦 工 鹿兒島ラ・サール  
 山本 武志 教養 广大附  
 湯原 真人 経済 桐朋

1974年 昭和49年

青山 研一郎 経済 旭丘  
 阿部 吉弘 理 前橋  
 井田 淳 経済 戸山  
 猪熊 康夫 工 灘  
 大矢 隆司 経済 旭丘  
 加川 実 経済 横浜翠嵐  
 潜道 隆 工 教育大附  
 本庄 孝志 工 麻布  
 牧野 尚雄 法 都立西  
 森 俊勝 工 前橋  
 山崎 隆志 理 大教大附天王寺

1980年 昭和55年

荒川 文男 工 宇都宮  
 井上 次典 工 宮崎南  
 木下 茂 経済 浦和  
 柴田 周 工 高松  
 赤城 庸人 経済 札幌西  
 田中 琢二 教養 愛光  
 中野 雅仁 工 天王寺  
 永山 慶一 工 湘南  
 萩原 豊 文 屋代

1985年 昭和60年

大久保 将之 工 湘南  
 後藤 裕一 教育 山形南  
 斉木 康二 法 筑波大附駒場

1975年 昭和50年

上村 司 法 灘  
 岸戸 健 工 教育大附駒場  
 広瀬 一郎 法 藤枝東  
 宮 恭久 文 栄光学園

1981年 昭和56年

飯田 裕樹 工 成蹊  
 石坂 哲将 法 浜松北  
 伊藤 洋 経済 山形東

1986年 昭和61年

安藤 拓郎 法 開成  
 磯村 建夫 工 武蔵  
 内田 智之 工 桐朋  
 小幡 健太郎 法 学芸大附  
 鹿取 正信 工 戸山  
 金元 輝 教育 光陵  
 金児 敦弘 経済 武蔵  
 熊岡 尚 工 海城  
 黒木 博史 工 高鍋  
 清水 谷 論 法 灘  
 住谷 安史 工 桐朋  
 手塚 耕治 経済 前橋  
 中村 文彦 法 総社  
 中村 雅文 工 桐朋  
 萩原 繁 農 筑波大附駒場  
 橋本 昌司 法 广大附  
 早野 裕 理 桐蔭学園  
 横井 聡 工 栄光学園

1987年 昭和62年

浅野 聖太 法 麻布

第4部 年表・名簿

荒巻 俊也 工 土浦一  
 小島 恭 教養 栄光学園  
 白枝 哲次 工 海城  
 津村 健司 工 大教大附天王寺  
 中村 聡 法 桐蔭学園  
 平岡 洋 農 鹿兒島ラ・サール  
 山口 老和 法 灘  
 山田 祈一 法 小田原

1988年 昭和63年

天野 賢一 農 岡崎  
 稲村 孝史 農 青山学院  
 荻野 哲弘 経済 広島学院  
 早間 央 文 福山誠之館  
 加藤 久直 経済 筑波大附駒場  
 嶋田 陽介 経済 旭丘  
 中村 一朗 経済 広島学院  
 蜷川 明男 文 海城  
 前沢 重男 工 青山

1989年 平成元年

大西 啓介 法 鹿兒島ラ・サール  
 吉岡 克真 工 筑波大附  
 片山 直樹 農 新居浜西  
 小松 成 法 鹿兒島ラ・サール  
 堀江 弘一郎 経済 灘  
 黒岩 征 経済 麻布  
 清水 崇 工 甲陽学院  
 岡垣 啓司 文 戸山  
 一色 史雄 工 麻布  
 中村 智 理 東葛飾  
 菊池 勇治 経済 駒場東邦  
 前田 剛 工 清風南海  
 北井 利玄 経済 暁星  
 星川 佳広 教養 旭丘  
 阿保 史彦 工 浦和  
 磯 新 工 鹿兒島ラ・サール  
 上杉 強志 経済 筑波大附駒場  
 島上 浩二 経済 光陵  
 瀬戸 二郎 工 国立

1990年 平成2年

甲斐 正彦 工 鹿兒島ラ・サール  
 霜島 弘則 経済 藤枝東  
 高橋 恒介 経済 桐朋  
 西原 基史 文 愛光  
 檜川 和正 工 広島学院  
 藤原 英正 法 武蔵

1991年 平成3年

有馬 嘉彦 農 真岡  
 江村 歎 工 戸山  
 大石 智弘 農 久留米大附設  
 大川 幸樹 農 佐原  
 小代 義行 工 加古川東  
 紀伊 智裕 工 久留米大附設  
 来住 修 農 光陵  
 高橋 康之 教育 日比谷  
 信国 陽二郎 理 浦和  
 藤井 玄 理 栄光学園  
 布瀬川 平 工 武蔵  
 森田 博通 法 洛南  
 森山 圭 工 鹿兒島ラ・サール  
 吉川 健司 法 藤島  
 分部 隆夫 経済 灘  
 渡辺 智 工 熊谷

1992年 平成4年

阿部 貴弘 工 巢鴨  
 石井 圭介 法 鹿兒島ラ・サール  
 今井 盛広 教育 聖光学院  
 神田 毅 工 開成  
 鳥 桂一 法 武蔵  
 鈴木 智典 農 宮崎南  
 瀬戸 三郎 理 筑波大附駒場  
 中井 章人 工 大教大附池田  
 西馬 功泰 工 淳心学院  
 古川 弘之 法 武蔵  
 前川 圭吾 農 麻布  
 松田 直樹 工 日比谷  
 松行 輝昌 経済 暁星  
 宮沢 啓明 文 千葉

1993年 平成5年

江口 英樹 工 水戸第一  
 竹内 眞之介 経済 麻布  
 多留 偉功 業 筑波大附駒場  
 塚本 俊作 経済 海城  
 服部 浩介 経済 聖光学院  
 濱本 三喜男 工 海城  
 原田 剛 工 麻布  
 原田 康史 農 洛南  
 村岡 哲郎 教育 明和  
 矢作 真美 経済 筑波大附駒場  
 山下 高広 農 広島学院  
 吉田 貢士 農 清風南海

1994年 平成6年

秋山 淳 法 桐蔭学園  
 加藤 浩隆 経済 開成  
 川人 解 法 大宮  
 手塚 慶太 工 都立西  
 萩原 隆之 工 鹿兒島ラ・サール  
 瑞本 昌夫 医 鹿兒島ラ・サール  
 菱沼 紀行 工 海城  
 増田 直毅 法 桐蔭学園  
 矢野 将文 工 愛光  
 山下 聖志 法 久留米大附設

1995年 平成7年

飯島 良介 理 武蔵  
 大谷 聡 文 筑波大附駒場  
 越部 経憲 工 武蔵  
 小林 政雄 経済 武蔵  
 永井 伸 工 平塚江南  
 日高 直俊 工 倉敷南  
 樋渡 類 法 広大附  
 藤井 哲 教育 桐朋  
 宮川 尚久 工 山形東  
 米良 英剛 法 船橋

1996年 平成8年

伊地知 亮太 法 鹿兒島ラ・サール  
 伊藤 達夫 文 桐蔭学園  
 梅村 充 工 暁星  
 下田 修平 文 麻布  
 鈴木 幹太 教育 灘  
 永井 悟 理 水戸第一  
 新倉 一郎 工 横浜緑ヶ丘  
 福田 雅 経済 暁星  
 古川 大輔 農 桐蔭学園

1997年 平成9年

足立 雅人 工 土浦第一  
 五十嵐 朝青 法 土浦第一  
 伊藤 陽介 法 山形東  
 小川 和聖 法 桐蔭学園  
 我部 有 業 筑波大附  
 長瀬 拓生 工 開成  
 浜田 聡 教育 洛南  
 広谷 昌俊 経済 筑波大附駒場  
 本多 祐樹 工 久留米大附設  
 松村 正之 理 桐蔭学園

1998年 平成10年

荒牧 嗣夫 理 栄光学園  
 上間 匠 教育 愛光  
 大町 卓也 教養 桐朋  
 沖野 泰之 理 広島学院  
 柿木 充 工 盛岡第一  
 鎌倉 貞之 業 湘南  
 斎藤 智治 工 小田原  
 中澤 篤史 教育 東大寺学園  
 祝部 智紀 農 広島学院  
 光井 逸平 工 麻布  
 幸田 健 経済 麻布  
 掘木 崇史 経済 武蔵  
 山中 直岐 農 筑波大附  
 南谷 梨紗 上智大 惠泉女学園

1999年 平成11年

緒方 崇裕 農 熊本  
 小野 高志 教育 国際情報  
 胡内 健一 工 旭丘  
 都島 豪志 工 東海  
 中島 大智 工 学芸大附  
 新山 通世 法 筑波大附  
 吉田 寛 経済 武蔵  
 米山 雅也 経済 桑名

2000年 平成12年

河島 清貴 工 八王子東  
 小松 幸広 文 土浦第一  
 鈴木 泰輔 農 国立  
 清 雄一 工 長崎南  
 高橋 康一 理 国立  
 費川 俊 経済 川越  
 茂木 高志 経済 浦和  
 山地 毅彦 工 土浦第一  
 渡部 雅史 経済 愛光  
 渡辺 勇樹 法 広大附  
 加藤 今日子 お茶ノ水女子大 土浦第一

2001年 平成13年

青山 昌太 教養 創価  
 河村 俊太郎 文 駒場東邦  
 坂本 優 工 千葉  
 瀬谷 洋平 農 宇都宮  
 辻 正太 教育 西大和  
 馬場 文玄 工 早稲田  
 一言 正之 工 駒場東邦  
 牧 尚史 工 星光学院  
 江里口 晴子 昭和女子大 昭和女子

2002年 平成14年

朝倉 越 経済 駒場東邦  
 岩田 真吾 法 海城  
 上土居 悠 工 修道

梶原 康嗣	工	巢鴨	木本 宏美	上智大 神奈川県外語短大附	小林 三奈美	医	常総学院		
北村 篤司	法	筑波大附駒場	野呂 順子	御茶ノ水 大宮	宮城 朋果	昭和女子	淑徳		
寺田 宏幸	文	高岡			山崎 華奈子	法	県立一宮		
福島 周作	工	筑紫丘	<b>2010年 平成22年</b>				<b>2015年 平成27年</b>		
宮副 照久	工	筑紫丘	熱海 修平	文 筑波大附	出射 大雅	文	岡山朝日		
山崎 浩平	工	桐蔭学園	岩田 宗一郎	教育 洛南	奥野 太介	工	灘		
志摩 陽子	東京女子大	神奈川県外語短大附	後藤 遷也	文 長岡	菅 正太郎	経	立川		
<b>2003年 平成15年</b>				高木 駿平	経 筑波大附	日下 暢之	文 渋谷教育渋谷		
赤木 升	法	世田谷学園	深田 啓介	工 日比谷	榊原 和洋	理 湘南			
池田 亮一	文	岡山朝日	藤安 雄治	工 緑ヶ丘	篠原 直登	農 開成			
石川 敏照	工	智辯和歌山	南田 遼太	農 筑波大附	末吉 弘昂	経 滝			
石黒 雄一	法	桐朋	村上 達哉	法 土浦第一	添田 隆司	経 筑波大附			
今西 康雄	工	青山学院	望月 進司	法 アーケディア	卓間 昭憲	法 鶴丸			
金子 泰拓	経済	筑波大附駒場	吉田 航太郎	工 弘学館	角田 貴大	工 聖光学院			
河村 卓修	経済	筑波大附駒場	<b>2011年 平成23年</b>				中塚 亮太	文 筑波大附	
小林 誠	経済	麻布	江連 豪	教育 開成	八田 良樹	理 筑波大附			
佐藤 洋平	教養	巢鴨	大内 三千生	文 麻布	羽場 優紀	農 麻布			
齋木 拓郎	法	麻布	久木田 紳吾	工 熊本	濱田 悠嗣	工 高知学芸			
諏訪 俊	農	世田谷学園	佐藤 裕人	教育 筑波大附	早川 大智	工 学芸大附			
中村 達也	工	徳山	白井 英介	文 開成	平野 周	工 麻布			
西村 直紀	教養	駒場東邦	田島 史也	経 八戸	松田 裕生	教育 灘			
小沢 真理子	法	Northern Highlands Regional	松谷 康平	工 浅野	三浦 章太	文 都立西			
須藤 佳奈実	東京女子医大	山手学院	藤村 美穂	東邦音楽大 国学院久我山	三澤 龍志	工 日比谷			
<b>2004年 平成16年</b>				丸井 由貴	学習院 宇都宮	石井 瑞妃	立教 湘南白百合		
青木 宏	工	小田原	<b>2012年 平成24年</b>				増田 瑛理	白百合 文京学院	
明石 篤	経済	筑波大附駒場	鈴木 康平	教育 八千代	松元 愛	白百合 國學院			
碓 知也	教育	広大附福山	道喜 開規	文 江戸川取手	<b>2016年 平成28年</b>				
池田 暁彦	工	麻布	野中 尚輝	工 蕨崎	安達 将太	経 北野			
伊藤 慶一	農	駒場東邦	蒔田 祐貴	経 開成	荒井 周午	文 学芸大附			
伊藤 貴寛	工	竹園	三浦 良介	法 栄光	池田 濯	工 鶴丸			
太田 裕一	工	膳所	宮川 啓輝	工 麻布	伊藤 正人	農 桜修館			
金山 祐介	理	麻布	森元 規裕	教養 海城	片瀬 郁也	工 柏陽			
菊月 達也	工	東邦大東邦	石川 蘭	白百合 聖ドミニコ	金瀬 宇彦	教育 県立千葉			
木野本 朋哉	経済	東大寺学園	小林 歩美	武蔵野 小金井北	鎌田 玄德	工 東大寺学園			
杉山 翔一	法	厚木	<b>2013年 平成25年</b>				行天 隼人	文 大教大附	
富永 啓太	法	灘	浅井 淳平	工 都立西	坂本 晋悟	教養 国際基督教			
畑中 計政	文	熊本	荒川 雄磨	工 修道	佐藤 瑞基	農 水戸第一			
水口 智	文	桐朋	石井 智大	法 千葉	近松 岳洋	経 麻布			
宮城 康暢	工	岡山白陵	入松川 知也	工 鹿兒島ラサール	張 亨碩	理 巢鴨			
宮本 雅之	経済	麻布	川瀬 智博	教育 筑波大附	辻 淳之	法 麻布			
百谷 将佑	工	東大寺学園	古賀 久善	農 久留米大附設	中西 大貴	工 浅野			
門田 大範	文	広島学院	鈴木 宏樹	工 青森	花嶋 陽	経 暁星			
<b>● 以上は90年誌の名簿を再録。</b>				田中 敏生	教養 久留米大附設	平野 元	教育 栄光		
<b>● 以降は卒業年次別構成で掲載。</b>				早田 洋平	工 鶴丸	藤岡 佑将	教育 東大寺学園		
<b>2009年 平成21年</b>				<b>2014年 平成26年</b>				増田 貴行	工 駒場東邦
大沢 拓巳	法	浦和	上原 大樹	工 昭和薬科大附属	松木 啓	農 渋谷教育幕張			
小蘭 健太	農	海城	植松 黎	薬 暁星	松田 健太郎	法 聖光学院			
斎藤 信	工	盛岡第一	大島 優迪	文 浅野	嶺川 一喜	農 久留米大附設			
鈴木 亮平	工	麻布	大藪 隆太	経 鶴丸	安武 遼太	工 栄光			
高橋 信行	工	岐阜	片桐 直宏	工 洛星	奥田 紗季	日本女子 藤女子			
林 敏	経	巢鴨	片山 元	文 東大寺学園	布施 明日香	日本女子 盛岡第二			
千布 勇氣	工	佐賀西	賀茂 駿介	農 暁星	<b>2017年 平成29年</b>				
中川 隆	工	巢鴨	吉清 裕一	工 桐蔭	石川 悠吾	教養 湘南			
中島 悠司	法	桐蔭学園	長尾 林太郎	文 暁星	加藤 辰弥	教養 甲陽学院			
中野 誠	教育	盛岡第一	中川 雄貴	経 武蔵	加藤 裕樹	農 鶴岡南			
那須 雄介	理	私立城北	東野 拓記	工 東大寺学園	軽部 琢真	教養 宇都宮			
西 健吾	工	海城	広川 英司	工 修道	北山 淳	教育 桐朋			
船本 洋平	文	巢鴨	光永 尚史	法 攻玉社	酒井 加里武	理 県立静岡			
水澤 仁雅	工	私立城北	矢野 慎一	工 広大附福山	新見 豪太	経 渋谷教育幕張			
南 哲	理	開成	山川 剛	工 早稲田	高野 陽介	文 開成			
			山口 裕吾	工 開成	出戸 秀典	農 金沢泉ヶ丘			
			遠藤 有香	日本女子 日本女子大附	富山 潤一	文 海城			
					中間 雅之	経 渋谷教育幕張			

第4部 年表・名簿

長久保 凱生 農 芝  
 平田 拓也 経 東大寺学園  
 符 毅修 工 巢鴨  
 山田 郁也 法 渋谷教育幕張  
 吉岡 龍弥 工 逗子開成  
 渥美 真生 文 豊島岡女子  
 鈴木 咲絵子 玉川大八雲学園  
 鈴木 拓実 法 灘

2018年 平成30年

尾上 尚太郎 文 攻玉社  
 北西 純也 工 武蔵  
 工藤 航 工 湘南  
 沢登 孝介 文 栄光  
 箭川 展 工 仙台第二  
 多田 康平 農 戸山  
 武田 憲介 経 Rotterdam Inter.  
 田中 豪 経 筑波大附  
 寺内 大貴 工 学芸大附  
 服部 直弘 工 暁星  
 俣野 泰佑 工 東大寺学園  
 松本 彩伽 医 熊本  
 矢崎 諒 農 芝  
 柳澤 アーサー 教養 オークランドグラマー  
 山岐 豪憲 経 本郷  
 山口 日向 工 聖光学院  
 山本 健 教養 聖光学院  
 金内 美苗 昭和女子 昭和女子

〈女子部〉

2014年 平成26年

成瀬 明 文 富山中部  
 藤井 朋子 院・総合文化 渋谷教育渋谷  
 岡本 真美 教養 徳島県立城東

2016年 平成28年

戸枝 美咲 院・総合文化 鳴友学園女子  
 大多和 愛 文 渋谷教育渋谷

2017年 平成29年

大坪 佳夏子 法 広大附  
 田中 周 農 片山学園

2018年度ア式蹴球部員

4年

糸谷 歩 経 聖光  
 井小路 莨 教養 暁星  
 小椿 直輝 教育 安古市  
 小坂 彩 経 清泉女学院  
 佐俣 勇祐 工 灘  
 寺山 怜志 工 麻布  
 中沖 隼 経 暁星  
 濱田 広輝 工 麻布  
 日野 雅奈 農 筑波大附駒場  
 藤山 晃太郎 工 都立国立  
 保坂 拓人 法 聖光  
 増田 伶 法 開成  
 森本 和人 法 筑波大附駒場  
 山口 遼 工 鹿島学園

3年

井上 雄太 文Ⅱ 早稲田  
 大池 一輝 文Ⅲ 函館ラ・サール  
 島田 啓太郎 工 麻布

城後 仁 農 芝  
 白藤 優 工 武蔵  
 新屋 輝長 教養 攻玉社  
 中村 紳太郎 工 湘南  
 細井 隼 工 福井武生  
 横 憲之 工 武蔵  
 松坂 大和 農 藤枝東  
 満永 達彦 教養 浅野  
 森 皓亮 教育 聖光  
 吉本 理 工 専修大松戸

2年

青木 辰平 理Ⅰ 早稲田  
 赤木 雅実 文Ⅲ 浅野  
 石川 旦 文Ⅰ 武蔵  
 石崎 梨理 理Ⅰ 仙台第二  
 伊地知 遼 文Ⅱ 聖光  
 上野 秀斗 理Ⅰ 札幌南  
 内倉 慈仁 理Ⅱ 大分上野丘  
 大谷 拓也 文Ⅰ 武蔵  
 神辺須 蓮 文Ⅲ 学芸大附  
 合田 周平 理Ⅰ 丸亀  
 佐藤 洋平 文Ⅰ 仙台第二  
 佐原 由香 理Ⅰ 大分上野丘  
 嶋崎 駿介 理Ⅰ 西大和学園  
 高宮 秀徳 理Ⅰ 都立大泉  
 鶴田 智也 理Ⅱ 湘南  
 中村 知朗 文Ⅲ 学芸大附  
 西 雄太 文Ⅰ 本郷  
 松本 周平 理Ⅰ 武蔵  
 三好 涼 文Ⅱ 成蹊  
 門前 佑太郎 理Ⅱ 筑波大附駒場  
 和田 爽 理Ⅰ 灘

1年

東 将太 理Ⅰ 筑波大附  
 天野 なぎさ 文Ⅲ フェリス女学院  
 鮎瀬 英郎 文Ⅱ 長崎西  
 石野 佑介 文Ⅱ 渋谷教育幕張  
 稲田 創 理Ⅰ 下関西  
 大田 楓 理Ⅰ 明石北  
 大槻 春歌 文Ⅲ 県立広島  
 黒松 育也 文Ⅰ 金蘭千里  
 河舘 貴行 理Ⅰ 愛光  
 後藤 彰仁 理Ⅱ 横浜翠嵐  
 佐田 晃平 文Ⅱ 早稲田  
 佐野 静香 文Ⅲ 朋優学院  
 染谷 大河 文Ⅱ 東葛飾  
 立川 玄 文Ⅰ 新潟  
 田中 秀樹 文Ⅰ 県立船橋  
 茶谷 晋伍 文Ⅰ 城北  
 土屋 香奈 文Ⅲ 岡山操山  
 平岡 弥久 文Ⅱ 洛南  
 松本 岳 理Ⅱ 開成  
 松山 樹立 理Ⅱ 浅野  
 宮坂 仁悟 文Ⅲ 麻布  
 山住 友利恵 文Ⅱ 横浜雙葉  
 吉岡 泰生 文Ⅱ 県立広島  
 吉本 遼平 理Ⅱ 大教大附天王寺

〈女子部〉

4年

小尾 真里奈 経済 桜蔭  
 横堀 ミラノ 法 岡山白陵

3年

水谷 優香 法 一宮  
 平田 佳織 理 豊島岡女子  
 松田 真優 工 山形東

2年

小倉 優香 文Ⅲ 小石川  
 兵藤 夏未 理Ⅱ 学芸大附  
 浅野 晴香 理Ⅱ 公文国際学園  
 サーカー 壽梨 理Ⅱ RN Podar High School  
 宮路 栞 文Ⅲ 学芸大附

1年

小澤 春佳 理Ⅱ 学芸大附  
 吉松 彩 理Ⅰ 江戸川取手  
 高橋 由侑奈 文Ⅱ 桐生



# 編集後記

## 「これからの100年」への指針

10月末に最終の校正を終えて、あとは印刷、製本という段階にきて、「さあ！これで記念誌は刊行できるんだ」という実感が湧いた。企画してから、足掛け4年。感無量である。何しろ素人集団なので、いろいろ手間がかかることも多かったが、編集に関わったメンバーは無論のこと、現役の力も借りながら、ここまでたどり着けたと思っている。そして御指導いただいた、スポーツライターの上野さん、インターブックスの田中さん、T&Kの松島さんには改めて感謝いたします。今回の企画は、90年誌を踏まえた上で、特に、ア式蹴球部とLB会の直近10年間の活動をもとに「これからの100年」に向けた指針となるものを示唆できたら、との思いであった。実際、これからの数年間が、ア式蹴球部とLB会の進路を左右することになると思うと、一段と身が引き締まる。…その矢先、現役は、東京都リーグ2部優勝、1部昇格という結果で期待に応えてくれた。さあ、101年の来年は、新たなスタートの年にするぞ。(武田 厚)

## 歴史は活字にしてこそ

ネットに情報があふれている中で、印刷物は読まれなと言われて久しい。しかし短い文章や写真1枚で、いきなりその場に行ける、やはり本の魅力である。今回わずか10年の活動を活字にしようとしたが、記録も記憶も抜けがあり、苦戦した。先人のお陰で『闘魂』(1~5号)やLB会報(No.1~19)、イヤープック(2010~15)、偉大な90年誌があるが、そこに加え、何とかこの100年誌を形にすることができた。シニアやサッカースクール、女子部などの活動を記録できたことも貴重であ

る。4年間のつながりが、未来へも広がっていく。歴史は活字にしてこそ輝きを増す…。新部室に続きこの半年間、編集の裏方をしたが、90年誌を片手に悪戦苦闘した。今回編集者の松島氏(90年誌も担当)がメインで、大きな枠組みから細部に至るまで大きな助けになった。関係者には感謝しかない。(吉澤伸明)

## 活動参加へのきっかけとなることを

まずは寄稿及びインタビューに協力頂いたLB会員また御殿下少年サッカーOBほかの方々にお礼を申しあげたい。卒業以来40年間ほとんど東大サッカー、LB会とは会費の納入以外無縁であった自分にとって100年誌編集の仕事は久しぶりのサッカーとの付き合いだった。おかげで今年の東大のリーグ戦は春の開幕戦以来ほとんどの試合を見ることができた。春から秋にかけて明らかに選手の「戦術の理解度」が上がり、1部復帰、2部優勝の瞬間に立ち会えたのは望外の喜びだった。「東大らしいサッカー」の追及で東京都1部、関東2部への躍進を期待したい。100年誌は過去の記録とともにこれからの100年への出発点である。多くのLBメンバーにとって(現役時に勝てなかった世代も、レギュラーでなかった人も、しばらくLBを離れていた人も含め)改めて東大サッカー、LBへの認識を深め色々な形でその活動へ参加するきっかけとなることを願う。(池田吉彦)

## 編集委員諸氏に感謝

この100周年記念誌は吉澤さん(S50卒)池田さん(S52卒)井田さん(S53卒)和田さん(S58卒)のご尽力なくしては完成しませんでした。ほとんど役立たず

の吉江はここに深く感謝いたします。また編集の上野さん、インターブックスの田中さん、T&Kの松島さんはタイトなスケジュールにも関わらず見事にまとめてくださいました。そのプロのお仕事に敬意を表します。（吉江建一）

### ア式蹴球部とLBの新たな可能性を再認識

100年誌の編集に携わり、改めて90年誌を読んでもと、素晴らしい出来栄の90年誌に、わずか10年で何が加えられるのだろうかという疑念がまず湧いたのですが、皆様から頂いた原稿や資料を読み進めるに従い、特にシニアの活動、女子部の創設、国際交流、別動隊でJリーグを目指す動きなど、この10年で起こった東大ア式蹴球部（あるいはLB）の新たな可能性を再認識することができ、それらを100年誌に盛り込むことができたように思います。もちろん、東大ア式蹴球部はあくまで現役の活動が中心にあるべきで、実力がものをいうスポーツの世界で勝負しているのだから、現役が学生サッカーの頂上を極めることを目標にすべきなのでしょうが、それより、東大ア式蹴球部にしかできないこと、即ち、優れた人的資源を最大限に生かして、地域に根差した理想的なサッカークラブを作ることが（字数が不足意は尽くせませんが）、東大ア式蹴球部が目指す途であるというのが、この編集に携わって私が感じたことです。

（井田 淳）

### 人は替われど、つないでいくこと

5号まで発行されている東大サッカー部誌『闘魂』、そして90年記念誌『闘魂90年の軌跡』、と先輩方がア式蹴球部の歴史を冊子で残してくれた。今回この100年

記念誌が加わる。インターネットの時代ではあるが、歴史を冊子という形で残すことには十分意義があると思う。部員は毎年入れ替わりながらも、ア式蹴球部は100年続いてきた。そこに息づくのは「闘魂」に凝縮される伝統なのだと思えて実感している。

昨年からLB会の事務局を手伝っている。創部100周年の今年、ア式の現役の支援に最大限注力しながら（現役は今シーズン東京都2部リーグ優勝、来年の1部復帰を見事果たしてくれた。女子部もリーグ戦毎に着実に成長している）、記念誌編集にも参加させていただいた。どこまで役割を果たせたといえるかは、はなはだ心許ない。ただ編集に参加して、ア式やLB会がこれからの100年に向けて役割を発揮していくための礎の一端を、LB会の一事務局員として微力ながら少しでも果たし、後世につないでいくことができれば、との思いを新たにしている。

（和田康太郎）

### 次の100年を楽しみに

100年という節目の年に立ち会えたこと、またそれを記念する本誌の編集作業に携われたことは誠に光栄です。現役部員は往々にして部の歴史や先輩方の功績に関して無知で鈍感であるものです。私自身これまで、あまり意識せずに過ごしてきました。しかし、本誌の編集作業を通じて多くの方のお話を聞く中で、このア式蹴球部というクラブに所属することの重みを実感致しました。現役としての最後の1年、その重みを感じながら過ごせたことは私にとって大きな財産となりました。次の100年でア式蹴球部がどのような道を歩んでいくのか、一人のOBとして楽しみにしております。（糸谷 歩）



以下の団体、個人の方々には本書の制作にあたり、資料・写真の提供など多大なご協力を賜りました。心より感謝いたします。(順不同、敬称略)

岸本健  
公益財団法人日本サッカー協会  
公益社団法人日本プロサッカーリーグ  
公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団  
公益社団法人日本農芸化学会  
文京区  
講談社  
御殿下サッカースクール一期生の皆さん  
ザスパクサツ群馬  
専修大学経済学会  
東京大学本部広報課  
東京ユナイテッドフットボールクラブ  
中島俱子  
大坪忠史(女子部父兄)  
中根雅子  
ベースボール・マガジン社  
毎日新聞社  
読売新聞社  
Oxford University Association Football Club

なお、本誌の制作にあたり、折原一雄が整理を手がけた我が国のサッカー史に関する膨大な資料(現在は日本サッカー協会に管理を寄託中)から多数の貴重な情報を得ることができました。

題 字 須賀敏孝  
版 画 小川 肇

(題字・版画ともに『闘魂』創刊号より採録)

編集委員 武田 厚 (昭和45年卒) 委員長  
吉澤伸明 (昭和50年卒)  
池田吉彦 (昭和52年卒)  
井田 淳 (昭和53年卒)  
吉江建一 (昭和54年卒)  
和田康太郎 (昭和58年卒)  
俣野泰佑 (平成30年卒)  
糸谷 歩 (現役4年生)

写 真 東大LB会会員  
東京大学ア式蹴球部  
上野直彦

制作協力 上野直彦  
(AGI Sports Management株式会社)  
株式会社インターブックス  
株式会社T&K

---

## 東京大学運動会ア式蹴球部100年誌 闘魂 これからの100年に向けて

---

発 行 2018年12月9日

発行者 武田 厚  
発行所 一般社団法人 東大LB会  
〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学運動会内

制作著作 一般社団法人 東大LB会  
東京大学運動会ア式蹴球部

印刷製本 光村印刷株式会社



The University of Tokyo  
Association Football Club 100<sup>th</sup> ANNIVERSARY